



平成22年7月16日 No. 14 村松東小学校 2学年便り

もうすぐ 夏休み!



1学期も残すところ、後1週間になりました。『東っ子の夏休み』でも、ご家庭で夏休みについて話し合っていたいただき、ありがとうございました。普段できないようなことにチャレンジし、安全で有意義な休みになるよう、学校でも準備をしていきたいと思えます。

得意なもの、苦手なもの、

今しかできないこと…やろう!ワクワク!
家族の一員として、家の仕事(お手伝い)
も積極的しましょう。



- ① 夏休み生活表【毎日1行日記】
- ② 夏休み学習「サマー16」【答え合わせ、間違えなおします。】
- ③ 絵日記2枚【絵には色もつけ、カラーで仕上げましょう。】
- ④ 読書の木【読書3冊以上。学校から3冊借りていきます。】
- ⑤ 自主学習
【漢字・計算などを中心に。国算ワールドや市販の問題集など。】
- ⑥ 一人1チャレンジ
★科学作品★観察記録★植物・昆虫標本★習字★硬筆★絵画
★ポスター(後日プリント配布)
★各種作文コンクール(後日プリント配布)
★その他 旅行記、詩、工作 など・・・
◎2学期に「一人1チャレンジ発表会」と作品展をします。
- ⑦ 担任への暑中見舞い
【担任も出します。夏休みの近況を教えてください。】

～着衣水泳をします～

7月20～22日(いずれか入水できる日)に着衣水泳を予定しています。夏休み前に、服を着たまま水に落ちたらどうなるか、その時どうすればいいのかなどを体験します。**着衣水泳用の衣類(できれば長袖・長ズボン)を20日(火)に持たせてください。**プールの水は、塩素が入っているため、衣類が傷むことがあります。色落ちなどで多少傷んでもよいと思われるものを持たせてください。



～野菜の鉢の持ち帰りについて～

生活科で世話をしてきた野菜の鉢を、**今日から23日(金)の間に持ち帰ってください。**野菜の背も高く、支柱も立ててありますので、子供だけで持ち帰ることは無理です。都合のよい時に持ち帰ってください。2学期は、植木鉢を学校で使いませんので、そのまま自宅でお使いください。

(朝顔で使用した支柱が必要なご家庭は、一緒にお持ち帰りください。)

学校でのザリガニの世話も今日までです。これからも育て続ける子、元いた川に返す子・・・自分の方法を教室で話し合いました。ご家庭で、ザリガニのお世話等、お声かけいただき、ありがとうございました。

～持ち物の点検をお願いします～

学校にあるものを少しずつ持ち帰ります。夏休み中に、中身の補充点検をお願いします。

- 鍵盤ハーモニカ**：唄口、ハンカチを洗ってください。
- 絵の具**：パレット、筆、雑巾をきれいに洗ってください。
絵の具の無くなってしまった色は補充してください。
- クレパス・クレヨン**：小さくなったものは補充してください。
(お店によっては、ばら売りをしています。)
- のり・はさみ等道具類**：記名があるか、もう一度確かめてください。
- 筆箱**：消しゴム、えんぴつ(4、5本)、定規、赤鉛筆、マイネームの点検も重ねてお願いします。



～30cmものさしの注文について～

2学期の算数で、30cm竹ものさしを使います。今日、注文書(封筒)を配りました。**購入される方は代金を添えて(おつりのないよう)23日(金)までに、お子さんに持たせてください。**ご家庭にある方は、購入の必要はありません。

●1学期お楽しみ会(前半)



HさんとRさんの頼もしい司会でした。台本を二人で考え、臨機応変にドッジボールや鬼ごっここの感想を話し、お見事でした！



「はじめのことば」はYさん。「けんか、けがをしないお楽しみ会をしましょう。」と堂々とお話しました。



Hさん、Yさん、Kさん、Tさんはドッジボール係でした。「ふつうのドッジボールを7分で2かい、王様ドッジボールを1かいします！」と方法も明確！「2分たって、残り5分になると、ボールはダブルです！」と、みんなにルールを説明し、しっかり後明先生にボールをお願いする4人でした。ちなみに担任は、“王様に2回ボールが当たること”を見張る当番でした・・・。



鬼ごっこ係はYさん、Kさん。「リアル鬼ごっこ」がいい～！と、学級の話し合いで決まり、係がルールを考えてくれました。ルールは、「おには、タッチしたらちょちょをします。その後、つかまった人はじゃんけんで負けたらおにになります。勝ったらまた逃げます。」と、大人から見ると不思議な爆笑おにごっこでしたが、2年生は、とっても楽しそうに、“ちょちょ”してました。

●「スイミー」音読発表会

「スイミー」の学習の最後に、自分の気に入った場面を音読で発表しました。選んだ理由や大事だと思う言葉をみんなに伝えてからの発表です。発表の感想を言おうと、たくさん手が挙がります。



●どうとく ～いのちをいただく～



「どう？重い？軽い？」と、袋をみんなに持ってもらいました。これは約3Kg。「生まれたばかりの赤ちゃんは、これくらいの重さだよ」と話し、毛布で重りをくるんであげました。すると、丁寧に慎重に重りを持ち、机に置かず、友達には手渡しするようになるんですね。「命の重さってどう？」と再度、話しました。



その後、『いのちをいただく』（文・内田美智子）を読みました。「みんなのおなかには、何匹の豚、牛が入っているんだろう…。野菜も、一生懸命に土の中でずっと生きていたよね…。」と少し話しました。

